

プログラム情報

- 国名：フィリピン
- 事業名：日本・バンサモロ復興開発支援(J-BIRD)
(技術協力、有償資金協力、無償資金協力)
- 協力期間：2003 年から
- 相手国機関：バンサモロ開発庁、ムスリム・ミンダナオ自治政府など

1. ジェンダー視点から見た紛争と平和構築

紛争下や紛争後の地域において、女性は、男性とは異なる苦難に直面します。紛争の影響で難民や国内避難民となる人々の 80%は女性や子どもとも言われています。紛争で夫を亡くした女性は、家族の世話をしつつ、生計を立てなければなりません。さらに、女性は、性的暴力や人身取引、紛争中および紛争後に増える家庭内暴力の被害者となることも多く、それら被害がもたらす心理的影響についても多くの事例が報告されています。また、多くの紛争地で、女性が戦闘員として、もしくは食事の世話係や事務係などの支援要員として、紛争にも参加しているという現実もあります。一方、近年、紛争を予防し平和を強化することに対して女性が果たし得る積極的な役割が認識されるようになりました。紛争で深刻な人権侵害に遭い、心身に深い傷を抱えた女性や子どもなど保護を必要とする人々には適切な支援が提供されなければなりません。また、紛争の影響を受けた女性が経済的に自立できるよう支援することも重要です。さらに、平和構築に女性が積極的に参画できるよう、必要な措置を講じる必要があります。

2. プログラムの概要・背景

2014 年 3 月、フィリピン政府とイスラム勢力「モロ・イスラム解放戦線 (MILF)」が包括和平合意文書に調印し、フィリピン南部のミンダナオ島で 40 年余り続いていた紛争が終結しました。2016 年には、新たに「バンサモロ政府」(自治政府)の樹立が予定されており、その自治政府の下で、イスラム教徒のみならず、キリスト教徒や先住民族を含むバンサモロ地域住民すべての平和と生活向上が実現されることが期待されています。

日本は、フィリピン政府と MILF との和平プロセスへの支援とともに、2003 年から、平和が定着することを目指し、日本・バンサモロ復興開発支援 (J-BIRD) の下、以下「3.ジェンダー視点に立った取り組み」を含む、地域の社会経済開発への支援を行ってきました。

3. ジェンダー視点に立った取り組み

(1) 紛争の影響を受けた女性を対象にした技術訓練

ミンダナオ島では、長年続いた紛争により、多くの女性が寡婦となり、経済的に困難な状況に置かれて

います。イティハドゥン・ニサ財団(現地の言葉で「女性救済のための女性グループ」)は、寡婦や貧困女性などの経済的自立を支援するため、2006 年に女性のための技術訓練センターを設立し、食品加工や服飾などの技術指導を行いました。センターでは、2009 年までの 3 年間に延べ 348 名が訓練を終え、小規模ビジネスや副収入による所得の向上を実現しました。2009 年にはセンターを拡張し、より多くの女性が訓練へ参加できるようになりました。



(2) 精神的不安を抱えた女性や子どもへの支援

ミンダナオ島では、生活への不安や、暴力や戦闘を目の当たりにすることにより、心理的なショックを受けたり、トラウマを抱えたりする女性や子どもが多くいます。また、虐待や家庭内暴力、性的暴力の被害者となる女性や子どももいますが、必要な支援を提供できる施設はほとんどありません。「ユナイテッド・ユース・オブ・ザ・フィリピンズ・ウィメン」は、2009 年にマギンダナオ州で初となる女性のみを対象とした社会福祉施設を設立し、支援が必要な人々に、カウンセリングやトラウマの治癒、法的支援、教育、専門医への紹介、技術訓練といった社会サービスを提供できるようになりました。

(3) 生計向上活動の実施

「ミンダナオ紛争影響地域コミュニティ開発のための能力向上支援プロジェクト」では、生計向上を目的とした野菜栽培事業や淡水魚養殖事業が実施されています。それらの事業には女性も参加し、技術を学んでいます。

(4) 女性行政官の人材育成とジェンダーに配慮した地域開発計画の策定

「バンサモロ包括的能力向上プロジェクト」では、新自治政府の設立に向け、若手行政官の人材育成を行っています。女性行政官も多数プロジェクトに参加しています。また、バンサモロ地域の開発計画は、ジェンダーに配慮して策定される予定です。

(5) 女性が主な裨益対象となる社会サービスの向上

JICA は、世界銀行と協力し、「ムスリム・ミンダナオ自治地域平和・開発社会基金事業」を通して、保育園やクリニック等を含めた施設整備を行い、地域の女性に福祉サービスを提供しました。

ミンダナオでは、伝統的に、女性がコミュニティの問題を解決する役割を担ってきており、和平プロセスでも、女性の役割が注目されています。その女性の声が和平プロセスへ反映されることで、平和の恩恵が女性へも届くことが期待されます。